

平成28年度主な事業報告

社会福祉法人 百音の会

社会福祉事業

1、特別養護老人ホーム水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
利用者延人数	2,136	2,309	2,195	2,232	2,320	2,295	2,393	2,295	2,371	2,332	2,115	2,380	2,281
1日平均数	71.2	74.5	73.2	72.0	74.8	76.5	77.2	76.5	76.5	75.2	75.5	76.8	75.0
稼働率	89.0%	93.1%	91.5%	90.0%	93.5%	95.6%	96.5%	95.6%	95.6%	94.0%	94.4%	96.0%	93.7%

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	53	16	10	12	45	22	5	55	19	14	21	44
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	49	21	9	15	17	30	33	31	15	1	3	0

③ 運営内容報告

◎ 平成28年度特養重点事項

項目	達成・成果等
-1 目標稼働率（補正予算訂正後） 93.5 %	達成 ・ 上期長期入院者（1か月以上）4名
-2 収益安定計画	
Ⅰ 稼働率安定のための方針 ・ 更なる知名度を高めるため営業力を高める ・ 入院者数の増加を防ぎ、空床を削減する ・ 入所判定での指針・・・現状としては、平均要介護度を3.9程度を目安とする	継続中 ・ 在宅部門とも連携し、営業活動を行った ・ 入院者数管理については引続き取組む ・ 平均要介護度はほぼ目標値で推移した
Ⅱ 営業力強化（兼ショート） ・ 定期的継続的な営業活動 ・ 情報収集の強化 ・ 近隣自治体エリアへ営業活動範囲を拡大 ・ 会議にて、常に管理者との情報交換、方針決定等の場を保持	達成及び継続 ・ 在宅部門や施設部門全体で営業活動を行った ・ 毎週在宅会議を行い、情報確認や戦略及び、問題解決等を行った ・ 新たな営業ツールの作成等を行った

	・ 営業ツールの強化（特養サービスを含めて互いに情報交換を行う）	
III	利用者の健康管理強化 ・ 発病や入院等が抑えられるように、日々の観察や気づき、医務・介護・相談員・ケアマネの連携強化 ・ 体調不良時の初動強化。必要な受診および内服治療をより早い段階で行う体制の整備 ・ 日常生活の中に医療的ケアが必要な方への対応力を強化、受け入れ対象を拡大	継続中、要検討 ・ 入院については11～2月に増加 ・ 初動対応についての振り返り、要検討 ・ 近隣の病院との連携強化により、入退院、緊急時の連携がスムーズに行えた ・ 受入人数を具体的に定め、予測を含めた調整を行った
-3	委員会 ※ 各決定事項等の情報伝達のスムーズさと、全職員への情報伝達が確実にできる方法の展開 ※ 年間を通して各議題に対する検討を行い、施設運営向上に努める ※ 各部署の責任者が委員会の情報、内容をより確実に把握できるよう努める	達成及び継続 ・ 各種委員会共に運営を行い、年間を通してその都度施設全体での活用ができた ・ 各委員会から各部署への報告、周知に関しては徹底する仕組みが構築、継続
-4	3か年計画（平成28年度分）	
I	特養増床計画（20床） ・ 開設済み ・ ショートステイから特養へ一部用途変更が可能か申請を行う	達成 ・ 平成29年4月1日より、ショート4床を特養へ用途変更（計 24床）
II	ユニットケア強化体制	
あ)	目配り気配り強化 ・ 24時間シートを定期的に更新し、利用者個々の生活を理解し、計画的・予測的なケアを目指す ・ 利用者の「いつもの状態」を理解し、ほんの些細な変化に素早く対応できるようにする ・ 利用者の望んでいること、言葉や行動の裏にある本当の思いを察知できるようにする ・ 職員同士や上下関係、家族の方々に対しても気を配れるように	継続中 ・ 24時間シートの作成、運用、更新についてスムーズに行えるよう今後も継続 ・ 気配り項目について（観察ポイントの教育情報共有の継続）
い)	認知症・医療行為対象者受入強化に伴う、研修教育等の準備を強化 ・ 認知症についての理解を深め、認知症ケアに強い施設となるための取組み ・ 認知症ケア実践者研修、認知症ケア実践リーダー研修受講の推進 ・ 施設内事例検討会の機会を作り、外部講習会等への参加や発表のための礎とする	継続中 ・ 認知症ケア基本研修に参加 ・ 認知症ケアについては継続取組み ・ 実践者研修等への参加、施設内事例検討会は継続取組み
う)	利用者中心の介護を全職員が目指す ※ 24時間シートを元に、個々の生活スタイルを水彩館で再現できるよう、努める ※ 「業務」から「対人援助」へ。目先の介助から全人的な利用者理解による総合的な支援への意識転換 ※ 「利用者観」の変革、「介助の対象者」より「まずは人として」	継続中 ・ リーダーを中心に、更新、運用面についての検討等 ・ 基本理念としての位置付けであることの周知徹底

i 起床・就寝	実施
・ その方がずっと送ってきた生活のリズムに合わせ、1日のスケジュールを組み替える ・ 爽快な目覚めは、心地の良い睡眠から～睡眠から生活のリズムを整えることの重要性を知る	・ 24時間シートを利用し、職員が情報の共有を行うことの強化及び継続 ・ 個々の生活歴にあわせた起床介助の工夫
ii 食事	実施
・ 人生最大の楽しみである「食」を一緒に楽しむ体制づくり ・ 簡単な調理への参加等、「食べる」だけでなく「食」の意義を理解する ・ 食器の選定、盛り付け、食卓など食の演出を工夫する ・ 大皿配膳導入に向けての準備及び取り組み ・ 椅子の使用、正しい姿勢、適正な速さなど、安全な食を追及する ・ 通常形態のものを食せる機能を維持するための取り組み ・ ソフト食の導入をはじめ、機能が低下してもおいしく食べられる調理法の工夫	・ 行事食、特別食の恒例化と工夫 ・ クラブ活動などを通して、調理への参加を促した ・ 大皿配膳、ソフト食について未実施、再検討 ・ 嚥下体操の取り組みの継続 ・ 入所時、入退院後の食形態について本人状況を確認し、必要に応じて検討会の開催
iii 排泄	実施
・ アセスメントに基づく、利用者独自の排泄リズムの把握 ・ 「日中おむつゼロ」の推進 ・ 健康かつ快適な排便コントロールの推進 ・ コスト意識の喚起 ・ 高機能な排泄用品に頼らずにケアの質を上げるための技術向上	・ 排泄カンファレンスを定期的に行い排便コントロールについて協議及び実施 ・ 快適に過ごしてもらうための取り組みを継続 ・ 排泄用品の見直し
iv 入浴	実施
・ 昨年度に引き続きユニット浴への移行…経験を重ねることで、技術向上・自信につなげる ・ 一対一でのケアの中で、利用者とのコミュニケーションを深め、個別理解を深める ・ 入浴前のケアから入浴後のケアまで一貫して行うことで、「入浴ケア」の幅を広げる ・ 機械浴、集団浴の実施方法の見直し…ユニット浴での気づきをフィードバック	・ ユニット浴の推進、技術力の向上 ・ 楽しみ、リラックスする時間の提供 ・ 安全のための入浴用具の見直し、購入
v 環境	実施
・ より家庭的なユニットづくり～しつらえからレイアウト、動線と視界を両立させる工夫 ・ ご本人らしい居室づくり～馴染のものに囲まれて暮らすことの理解 ・ 人も環境の一部であることの意識～業務中の服装や身だしなみの見直し	・ 各ユニットごとでのしつらえの工夫 ・ 職員の身だしなみ等の徹底 ・ ユニフォームではない適切な服装の推奨
vi ユニット内におけるレクや機能訓練	実施
・ あっとはーむ体操の定着 ・ 嚥下体操、口腔機能維持の為のケアを高める ・ ユニット浴・トイレの使用・起居動作等・身体	・ 部署ごとの運用、実施の継続 ・ 生活の中での動きを意識的にを行い、リハビリにつなげることの理解

		機能を活かし、生活リハに繋がる介助法の習得 ・「レクリエーション」に限らない「アクティビティ」を学ぶ ・あくまでも利用者中心に「ひまつぶし」の大切さを考え、職員側の手軽さを知る ・季節や伝統文化を楽しむ	・クラブ、委員会、各部署ごとと、多方向から楽しみや生きがいを見つけるための体制整備
	vii	怪我や発病時の対応等 ・事故、容体急変などの有事の対応をマニュアル化し、すべての職員に徹底させる ・小さな変化に気づける「目」の育成…「いつもの状態」を把握することの重要性を知らせる ・ヒヤリハットの報告 ・感染症発生時の対応をマニュアル化する	実施 ・委員会、産業医の指導により、対応力の強化 ・事故防止のためのヒヤリハット提出の励行
	え)	エリアマネジメント強化 ・エリアとエリアチーフを選定し、管理運営しやすい環境を作り上げる (今年度心得) ・自分の仕事をよく理解すること ・自分の長短所を把握すること ・自我をコントロールしチームワークを大事にすること ・相手を多少でも敬えるように ・計画を達成すること	実施 ・エリアチーフ選定により、事業運営方針等の伝達や、フロア情報がスピーディーに上層部に届きやすくなった。更なるリーダー職の管理業務強化と、チームワークの強化を高めていきたい
	お)	ユニットリーダー育成 ・ユニット固定によるリーダーとしての自覚を持たせる ・競争意識を刺激し、互いに「切磋琢磨」することでリーダー同士の仲間意識を育てる ・リーダー業務を明確化し、役割意識と責任感を養う ・管理者としての役割、リーダーとしての立場を伝えていく ・リーダーに必要な各種スキルの習得（コミュニケーション・コーチング・マネジメント等）	継続中 ・業務内容の一部をリーダーに権限移譲することにより責任感をもってもらう ・会議を実施し、伝達事項の統一性を保持 ・新人リーダーへの指導 ・リーダー業務の外部研修は来季実施予定
	か)	チームワーク強化 各エリアのチーフを中心としたチームワーク強化を行い、業務がスムーズに行える体制づくりを目指す	継続中
	i	各チーフを中心に、運営方針や情報統制等を行う	実施 ・エリアチーフに関しては、今期で一旦終了
	ii	各部署ごとの連携を強化し、情報交換や対応策をスムーズにする	情報統制体制については再検討
	き)	ケアプランの重要点 ・できる限り、本人のニーズに合わせた生活スタイルを考える ・生活支援のための機能訓練や健康管理方法を考える	継続中 ・作成及び発行継続

	III 施設内整備		
	あ) 施設内修繕等		実施
	い) ユニットケアに合わせた施設内整備		・予算を元に、必要に応じた各所修繕と備品整備を行った
	・個々のユニットの個性を出した設え		
	う) 残り5床のベッド整備		・ロボット認定ベッド3床を導入（補助金活用）
	IV サービス強化体制		
	i レクリエーション及び、自立支援		
	あ) 小旅行提案		未実施
	・車椅子利用者が参加できる方法等を検討し整備する		
	い) ユニットレクの推進		実施
	・調理や外出、地域との交流や家族参加、利用者制作作品の展示等、レクのバリエーションを広げる整備をしていく		・行事やクラブ活動を中心に実施
	う) 機能訓練の推進		実施及び継続
	※あっとほーむ体操の継続		
	え) 施設内売店の推進		実施及び継続
	食料品販売・・・	月2回開催	・ご利用者からの評判よく、継続実施
	衣料品販売・・・	年2回開催	
	お) 利用者によるお手伝いポイント制度の導入（生活リハビリ）（年度内施行）		実施及び継続
	A) お手伝い内容の選定		・引き続き、数名の方が実施中
	※在宅との関連性を高められるよう、テーブル管理・窓ふき・床掃除・配膳下膳・菜園管理を提案し、詳細を今年度中に取り決める		暮らしの楽しみ、生きがいにつながっている
	B) ポイント交換における内容検討（QOLの向上に繋がるように、年度内にて施行）		実施及び継続
	※A)の各項目に対し、行ったお手伝い内容において、ポイントを還元し商品等との交換を可能とさせる		・ポイントに応じて、ご本人の要望に応じたプレゼントの交換実施
	・お菓子等との交換		（季節に応じた衣類小物・写真集・書籍・お菓子など）
	・外食料金との交換（お弁当・ファーストフード等）		
	・称号やそれを証明するものとの交換（メダルや勲章等）		
	・小旅行、買い物ツアー等の優待券との交換		
	か) クラブ活動（生活リハビリを兼ねた形で運営）		実施及び継続
	各4つのクラブ活動が毎月1回各ユニットで開催できるよう運営し（クラブ係が運営とする）、全利用者参加にて対応する		・クラブ活動費として参加希望者から費用徴収 感染症流行期は休止し、費用未徴収
	A) 合唱クラブ		実施
	参加者との一体感を感じ、発声による体幹機能維持を目指す		
	B) 料理クラブ		実施
	食の楽しみと、器具を用いたIADLの向		

		上を目指す	
		C) 書道クラブ 手と指のリハビリと、文字を書くことでの脳トレを目指す	実施
		D) ゲームクラブ 生活リハビリが含まれたゲームを提案し、楽しさと協力性を目指す	実施
		き) P T もしくは O T の雇用（来期に向け予算等との流れを見ながら準備を行う）	未実施
	ii	看取りおよび終末期ケア	
		あ) 終末期ケアの向上 ・ 終の棲家としての役割を知り、担う ・ 定期的な研修、質の向上 ・ 家族等への説明の時期の判断、信頼関係の構築 ・ 全職種間の連携 ・ 嘱託医との連携 ・ 職員のメンタルヘルスケア	実施及び継続 ・ 28年度は 計 7 名の方のお看取り実施 ・ 嘱託医、職種間の連携も安定 ・ 仏具セットの購入、お別れの機会の確保
	iii	感染症対策	
		あ) 感染症流行時期の対策 ・ 職員の健康管理の徹底（出勤時の検温の実施 ・ 本人家族の健康管理についての報告事項の徹底・発病時の対応の徹底） ・ 館内発症状況による、面会等制限についてのマニュアル化、その厳守の徹底 ・ さら 改善 ・ 嘱託医、産業医への報告、指示、通達事項の徹底	継続中、要検討 ・ 昨年同様に対策したが、ひとユニット内でまん延し入院者を出した。公的機関に報告 ・ 産業医、嘱託医に報告、対策指示のもと職員に予防薬の投与等実施、約ひと月で終息 ・ 来年度のために職員アンケートを実施、来時期までにマニュアル等の見直し ・ 三月末まで面会制限 ・ 感染対策委員会を設置
	V	地域貢献及び交流・連携	
	i	お祭り・文化祭・敬老会・家族会・喫茶室等	
		あ) お祭り（納涼祭） ・ テーマ「愛」 ・ 平成28年7月下旬ごろ開催予定 ・ 利用者様とご家族と職員が揃って参加できる様に工夫を凝らすこととする ・ 会場設営の工夫	実施 ・ 7/30実施 参加人数180名 夕方から実施
		い) 文化祭 ・ テーマ「未来」 ・ 平成28年11月上旬ごろに3日間開催予定 ・ 利用者様とご家族と職員が揃って参加できる様に工夫を凝らすこととする ・ 地域の方々が更に気軽に来館できる様に工夫を凝らすこととする ・ 子供達を楽しめるスペースを設けることとする	実施 ・ 10/28.29.30実施 ・ 近隣保育園、幼稚園生の作品の展示 ・ 功労賞授与式 ・ 仮装大会
		う) 敬老会	実施

	館全体で敬老の日を祝い、高齢者を大切にする気持ちを再確認する ・幼稚園児等による催し物を組み込む ※参加依頼・・・ふたば幼稚園	・9/19 敬老の日 実施 ・恒例の市長による褒章伝達と演奏披露
	え) 家族説明会 制度改定や、事業計画、日々の生活、催し等の報告、説明 ・本年度は2回開催(6月・11月予定) 参加人数を増やす工夫として、催しとの同時開催等の計画	実施 ・6月 20名参加 防災訓練同時開催 事業報告・その他お知らせ ・11月 5名参加 文化祭中日 事業報告・その他お知らせ
	お) 喫茶室 A) レク委員会へ運営を移行(月2回の開催) ※ ボランティアを中心とした提供の場合(地域の方との交流) ※ 特養・ショート・デイの利用者方が参加できる様に配慮する	実施 ・感染症流行期は休止 ・ボランティアの継続、確保が難航しているため来年度については未定
ii	町会活動	
	あ) 小文間・城根 ※城根町内会行事に職員も含めて参加 ※小文間夏祭りに介護相談会を兼ねて参加、気軽に寄って頂けるよう、出店も含めて参加 ※民生委員の方々との交流を深め、近隣高齢者の実態を把握し地域福祉に貢献していく	達成及び継続 ・小文間の夏祭り8/20(土)に介護相談コーナー等で参加 ・地域貢献事業の一環として、城根地区において 3/20(祝)「彩の集い」を実施 内容：地域の方、民生委員を対象に介護相談会、介護予防の講話や催しと軽食を提供 居宅ケアマネ・施設職員の協力のもと気軽に参加できる集いとした。
	い) 井野団地 ※井野団地夏祭りに介護相談会を兼ねて参加、気軽に寄って頂けるよう、出店も含めて参加 ※社協主催の『地域助け合い座談会』への参加を継続する	達成及び継続 ・7/31(日)井野団地お祭りに介護相談コーナーと軽食で出店 ・助け合い座談会の実施なし
	う) 桜が丘 ※介護教室等を行っていく	未実施
	え) 龍ヶ崎 ※夏祭りに介護相談会を兼ねて参加	未実施 ・館の行事と重なり、不参加
iii	介護教室 ・口腔ケア勉強会の開催(訪問歯科との連携) ・認知症サポーター養成講座の開催(施設職員による指導) ・福祉用具勉強会(福祉用具貸与業者との連携) ・介護職向け研修等	未実施
iv	幼児・学校交流 あ) 市内の幼稚園・小中学校との文化交流強化(文化祭等での交流) ※小中学校の児童生徒の作品展の開催・福祉教育への協力 ※ふたば幼稚園園児による踊り	実施及び継続 ・中学生の職場体験、クリーンデイ ブラスバンド演奏の慰問 ・敬老会にて幼稚園生の踊りと歌の披露 ・文化祭にて幼稚園生の作品の展示

		※取手一中生徒によるプラスバンド演奏	・障がい者団体の踊りの披露
		い) 介護体験学習会の開催 ※福祉教育活動の一環として、学校への出前授業や、施設を活用し体験学習等を実施	未実施
	V	ボランティアの活用、交流	
		あ) ボランティア受け入れ態勢の整備 ・ボランティア担当者によるボランティア内容の把握、受け入れ ・地域の人にいつでも来てもらえる施設として開放することの広報活動 ・市のボランティア窓口である社会福祉協議会との連携継続	実施及び継続 ・希望者の受入れ継続
		い) 介護予防ボランティアの受け入れ、活用 ・取手市登録のボランティアの積極受け入れ、活用の継続 ・地域の人にいつでも来てもらえる施設として開放 ・社会福祉協議会への活動内容の報告	実施及び継続 ・希望者の受入れ継続
		う) ボランティア団体の活用、交流 ・慰問系、活動系、レク指導系、傾聴などのボランティアの積極受け入れ、活用の継続 ・ユニット内の活動ボランティアの受け入れ、ルール決めなど ・行事の際の参加の依頼	実施及び継続 ・定期開催の定着 ・行事へのボランティア参加の呼びかけし、参加いただく（夏祭りは16名）
	VI	職員関係	
		i 教育	
		あ) 在宅ケア強化 ※特養のため明記なし	
		い) ユニットケア強化（リーダー育成と利用者中心の介護理念を徹底） ・今期はエリア分けを行い、そのエリアにチーフを選任し管理しやすい体制をつくる ・ケア対応困難者受入体制強化準備（認知症・医療処置対象者等） ・介護職の根本を再認識する	継続中 ・エリア責任者を配置し、報告、相談しやすい体制を整備 ・医療対象者等の受入れについて人数決め等を行い、また医療対応についてのルール見直し
		う) 職員教育のマニュアルを作成(新人教育や現職員にも活用できるようなもの)	実施及び継続 ・職員心得の改訂版作成、配布
		ii 職員確保	
		あ) 高校・大学・専門学校との連携強化 ・近隣の高等学校、専門学校との交流、人材確保のための営業 ・卒業生の活用 ・各種就職説明会の活用 ・専門学校生の実習受け入れ・中高生の職場体験実習の受け入れ	実施及び継続 ・近隣高等学校等への挨拶、訪問、情報収集 ・県就職セミナー、専門学校セミナー参加 ・介護福祉士実習生の受入れ ・職場体験、実習生等の受入れ ・高卒者 2名 ・介福 1名 採用
		い) ケアマネジャー雇用予定（居宅介護支援事業所の運営強化）	

		※特養のため明記なし	
		う) 平成２７年度の目標継続	
VII	介護用具整備	実施	
	・ 会議等において備品選定を行い、予算内にて購入予定とする	・ ロボット認定ベッドを導入 ・ 車いす、Ｐトイレの買換え	
VIII	職員待遇	・ 夏季、冬季特別手当の待遇を昨年度より向上	
	・ 年度内にて要検討		
IX	外国人雇用	実施	
	平成２７年度の達成度を踏まえ、計画の推進を図る ※ 教育方法の基盤を作成する	・ 定着率を鑑み、積極的雇用についての教育方法等について要検討	
X	在宅事業強化 ※特養のため明記なし		

2、ショートステイ水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
利用者延人数	425	463	394	453	569	488	513	487	550	517	418	482	480
1日平均数	14.2	14.9	13.1	14.6	18.4	16.3	16.5	16.2	17.7	16.7	14.9	15.5	15.8
稼働率	70.8%	74.7%	65.7%	73.1%	91.8%	81.3%	82.7%	81.2%	88.7%	83.4%	74.6%	77.7%	78.8%

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	9	3	1	5	5	3	3	8	2	4	3	6
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	7	4	2	2	2	5	8	5	0	0	0	0

③ 運営内容報告

◎ 平成28年度ショート重点事項

項目	達成・成果等
-1 目標稼働率（補正予算訂正後）79.1 %	ほぼ達成 ・年度初頭の不安定さが要因と考える
-2 収益安定計画	
Ⅰ 新たな加算項目の導入 ・年度を経て要検討とする	特になし
Ⅱ 営業力強化（兼特養） ・定期的継続的な営業活動 ・情報収集の強化 ・近隣自治体エリアへ活動範囲を拡大 ・営業会議にて、常に管理者との情報交換、方針決定等の場を保持 ・営業ツールの強化（特養サービスを含めて互いに情報交換を行う） ・緊急時の受け入れ強化	継続中 ・4～7月について、稼働が安定するための営業の取組みを要検討 ・公的機関からの緊急受入についての対応の徹底 ・その他は特養と同じ
Ⅲ 利用者の健康管理強化とアセスメント力をUPさせる ・発病や入院等が抑えられるように、日々の観察や気づき、医務・介護・相談員・ケアマネの連携強化 ・体調不良時の初動強化。家族、ケアマネへの連絡連携の強化	継続中 ・利用時の医療とのかかわりについて、契約時説明書の作成とその利用 ・施設内での情報共有の強化

	日常生活の中に医療的ケアが必要な方への対応力を強化、受け入れ対象の拡大を検討	
-3 委員会	※ 各決定事項等の情報伝達のスムーズさと、全職員への情報伝達が簡略できる方法を展開する ※ 年間を通して各議題に対する検討を行い、施設運営向上に努める ※ 各部署の責任者が委員会の情報をより良く把握できるよう努める	達成及び継続 ・特養と同等
-4 3か年計画（平成28年度分）		
I 特養増床計画（20床）	・開設済み ・ショートステイから特養へ何床か利用変更できるように申請を行う	・平成29年4月1日より、ショート4床を特養へ用途変更（計16床）
II ユニットケア強化体制		
あ) 目配り気配り強化		
い) 認知症・医療行為対象者受入強化に伴う、研修教育等の準備を強化		
う) 利用者中心の介護を全職員が目指す	※ 24時間シートを元に、個々の生活スタイルにどれだけ介護職務が近づけるかトライしていく	
i 起床・就寝		
ii 食事		
iii 排泄		
iv 入浴		
v 環境		
vi ユニット内におけるレクや機能訓練		
vii 発病時の対応等		
え) エリアマネジメント強化		
お) ユニットリーダー育成		
か) チームワーク強化		
III 施設内整備		
あ) 施設内修繕等		
い) ユニットケアに合わせた施設内整備		
う) 残り5床のベッド整備		
IV サービス強化体制		
i レクリエーション及び、自立支援		特養と同等とする
あ) 小旅行提案		
い) ユニットレクの推進		
う) 機能訓練の推進		
え) 施設内売店の推進		
お) 利用者によるお手伝いポイント制度の導入（生活リハビリ）		
か) クラブ活動（生活リハビリを兼ねた形で運営）		
ぎ) PTもしくはOTの雇用		
ii 感染症対策		
		特養と同等とする ・ショートステイのPRのために外出、レクリエーションに力を入れ、月毎のお便り等で広報活動

V 地域貢献及び連携		
i お祭り・文化祭・敬老会・家族会・喫茶室等		特養と同等とする
あ) お祭り (納涼祭)		
い) 文化祭		
う) 敬老会		
え) 家族会		
お) 喫茶室		
ii 町会活動		特養と同等とする
あ) 小文間・城根		
い) 井野団地		
う) 桜が丘		
え) 龍ヶ崎		
iii 介護教室 (年 1 回づつ開催)		
iv 幼児・学校交流		
v ボランティア団体の活用、交流		
VI 職員関係		
i 教育		
あ) 在宅ケア強化 ・次期介護保険法改正等も含め、来期再度在宅 ケア強化方針を検討しなおす ・在宅利用者の目線を持ちながら、ケアや職務 内容を考え実践する	継続中 ・在宅サービス間の連携強化を行い、情報共有 や顧客管理をすることで施設内サービスの利 用がスムーズに行え、ご利用者ご家族への負 担を軽減	
い) ユニットケア強化 (リーダー育成と利用者中心 の介護理念を徹底)		特養と同等とする
う) ケア対応困難者受入体制強化準備(認知症・医療 処置対象者等)		
え) 介護職の根本を再認識する		
お) 職員教育マニュアルを作成(新人教育や現職員に 活用できる様なもの)		
ii 職員確保		
あ) 高校・大学・専門学校との連携強化		特養と同等とする
い) ケアマネジャー雇用予定 (居宅介護支援事業所 の運営強化)		
う) 平成 27 年度の目標継続		
VII 介護用具整備		
VIII 職員待遇		特養と同等とする
IX 外国人雇用		
X 在宅事業強化		継続中
i 営業力強化と実践力強化		・定期的なミーティングを行い、連携強化を 維持
iii 居宅、デイ、特養との施設内連携強化		

3、デイサービスセンター水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
稼働日数	26	26	26	27	26	26	27	25	25	24	25	27	26
利用者延人数	362	345	361	402	437	456	471	451	441	407	442	469	420
1日平均数	13.9	13.3	13.9	14.9	16.8	17.5	17.4	18.0	17.6	17.0	17.7	17.4	16.3
稼働率	55.7%	53.1%	55.5%	59.6%	67.2%	70.2%	69.8%	72.2%	70.6%	67.8%	70.7%	69.5%	65.1%

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	51	2	0	36	16	1	40	12	1	35	18	0
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	46	7	0	2	1	2	44	8	1	0	0	0

③ 運営内容報告

◎ 平成28年度デイサービス重点事項

項目	達成・成果等
-1 目標稼働率（補正予算訂正後） 64.1 %	達成 ・年度初頭の集客に課題
-2 収益安定計画	
Ⅰ 新たな加算項目の導入 ・ サービス提供強化加算（Ⅱ）の導入	導入済み
Ⅱ 営業力強化 ・ 定期的継続的な営業活動 ・ 情報収集の強化 ・ 近隣自治体エリアへ営業活動範囲を拡大 ・ 営業会議にて、常に管理者との情報交換、方針決定等の場を保持 ・ 営業ツールの強化（特養サービスを含めて互いに情報交換を行う）	継続中 ・ 4～7月について、稼働が安定するための営業の取組みを要検討 ・ 特色のあるデイであるための取組み ○個別レクリエーション ○天然石風呂 ○新パンフレットの作成
Ⅲ 通常規模への対応強化 ・ サービス提供内容や職員配置及び介護力強化を検討し実践する。	継続中 ・ 利用人数増加による、入浴等手順の見直し
Ⅳ 利用者の健康管理強化とアセスメント力をUPさせる ・ 発病や入院等が抑えられるように、日々の観察や気	実施及び継続

	づき、医務・介護・相談員・ケアマネの連携強化 ・ 体調不良時の初動強化。家族、ケアマネへの連絡連携の強化 ・ 日常生活の中に医療的ケアが必要な方への対応力を強化、受け入れ対象を拡大	
V	認知症対象者受入強化に伴う、研修教育等の準備を強化 ・ 認知症ケア実践者研修、認知症ケア実践リーダー研修受講の推進 ・ 施設内事例検討会の機会を作り、外部講習会等への参加や発表のための礎とする	継続中 ・ 実践者研修については未受講
VI	日常生活支援総合事業への対策と方針策定	継続中、要検討
-3	委員会 ※ 各決定事項等の情報伝達のスムーズさと、全職員への情報伝達が簡略できる方法を展開する ※ 年間を通して各議題に対する検討を行い、施設運営向上に努める ※ 各部署の責任者が委員会の情報をより良く把握できるよう努める	達成及び継続 ・ 特養等と同等
-4	3か年計画（平成28年度分）	
I	施設内整備	
	あ) 施設内修繕等 い) 利用者目線での施設内整備を検討	・ 予算を元に、必要に応じた各所修繕と備品整備を行った
II	サービス強化(管理者、相談員が相談し実行する)	
i	レクリエーション及び、自立支援	
	あ) 小旅行提案	未実施
	い) 生活リハを含むレクの推進（外出機会を増やす）	実施及び継続 ・ 季節に応じた外出・外食会
	う) 機能訓練の推進（アットホーム体操・平行棒セット等の継続や見直し）	実施及び継続 ・ 定期的な評価、見直しのサイクルを定着化
	え) 施設内売店の推進（施設側と合同参加）	実施及び継続
	お) 1日複数レクの提供計画と実践 ※個別レク等を含め上半期に検討し、実践する	実施及び継続
	か) 送迎業務の業務方針の徹底 ※スムーズな業務方法への改善と実施	実施及び継続 ・ 大きな事故等はなく、安全に遂行
ii	感染症対策	特養と同等とする
III	地域貢献及び連携	
i	お祭り・文化祭・敬老会・家族会・喫茶室等	
	あ) お祭り（納涼祭）	
	い) 文化祭	
	う) 敬老会	
	え) 家族会	
	お) 喫茶室	
ii	町会活動	特養と同等とする

		あ) 小文間・城根	特養と同等とする
		い) 井野団地	
		う) 桜が丘	
		え) 龍ヶ崎	
	iii	介護教室（年1回ずつ開催）	
	iv	幼児・学校交流	
	v	ボランティア団体の活用、交流	
IV	職員関係		
	i	教育	
	あ)	在宅ケア強化 ・次期介護保険法改正等も含め、来期再度在宅ケア強化方針を検討しなおす ・在宅利用者の目線を持ちながら、ケアや職務容を考え実践する ・在宅利用者のニーズに答えられようなサービス展開を思案する	実施及び継続 ・在宅サービス間の連携強化を行い、情報共有や顧客管理をすることで施設内サービスの利用がスムーズに行え、ご利用者ご家族への負担を軽減
	い)	介護・サービス力強化 ・デイサービスにおける、介護方法や職務の流れを再確認し、基本方針を定める	実施及び継続 ・定期ミーティングの開催で職員全員に周知徹底
	う)	ケア対応困難者受入体制強化(認知症・医療処置対象者等)	実施及び継続 ・要見守りの認知症利用者等の受入れ
	え)	職員教育マニュアルを作成(新人教育や現職員に活用できる様なもの)	実施及び継続 ・特養と同等
	ii	職員確保	
	あ)	P TもしくはO Tの雇用予定（予算等に応じて、来期に向けての準備）	特養と同等とする
	い)	高校・大学・専門学校との連携強化	
	う)	外国人労働者の確保及びその準備（現職員の長短所を見分け、何が教育に必要なか定める）	
	v	介護用具整備	
	VI 職員待遇		特養と同等とする
	VII 外国人雇用		
	VIII 在宅事業強化		継続中
	i	営業力強化と実践力強化	・定期的なミーティングを行い、連携強化を維持 ・個人情報保護等の徹底
	ii	利用者のニーズに答えられるサービス力をつける	
	iii	居宅、デイ、特養との施設内連携強化	
	iv	プライバシー保護の徹底	

1、居宅介護支援事業水彩館

① 平均稼働率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均値
要支援（人）	12.0	14.0	14.0	13.5	13.0	12.0	13.0	13.5	14.5	13.0	12.5	12.0	13.1
要介護（人）	59.0	55.0	58.0	55.0	59.0	59.0	61.0	61.0	62.0	63.0	63.0	62.0	59.8
利用者数（人）	71.0	69.0	72.0	68.5	72.0	71.0	74.0	74.5	76.5	76.0	75.5	74.0	72.8

（※要支援者は、0.5名として換算する。）

② 日常生活状況（3月末時点）

区分	食事			排泄			入浴			歩行		
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助
人数	84	2	0	46	40	0	17	68	1	24	55	7
区分	寝返り			車椅子			整容動作			褥瘡	胃ろう	酸素
	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助	自立	一部介助	全部介助			
人数	42	44	0	38	48	0	0	8	0	1	0	0

③ 運営内容報告

◎ 平成28年度居宅重点事項

項目	達成・成果等
-1 目標顧客数（補正予算訂正後） 72.3 件	達成
-2 収益安定計画	
Ⅰ 顧客確保計画	
ⅰ ケアマネ個々に強みを持つことで、特化したケースの依頼を受けられようにする	継続中 ・ 公的機関との連携良好、来期も継続 ・ 法人の地域貢献事業の中心的な役割を担う ・ 2月まで2.6名体制 3月以降 常勤3名 ・ 専門職としての知識、強味のある自己研鑽の継続
ⅱ 包括支援センターとの信頼関係の構築、保持、継続	
ⅲ 病院等の地域連携室、医療機関等への営業強化	
ⅳ 認定調査の受託	
ⅴ 地域に根差し、水彩館知ってもらうための活動を行う	
ⅵ 認知症についての専門知識をもつ	
ⅶ 新規ケアマネ雇用	
-3 委員会	特養と同等とする
-4 サービス強化体制	
Ⅰ ケアプランの作成時の留意点	実施及び継続

新規受け入れ ・他事業所、地域包括、役所、医療機関等からの依頼・利用者等からの直接依頼は基本にお断りしない ・要支援者の積極的な確保 ・検討が必要と思われるケースについては、各機関との相談、管理者との相談を経て判断 ・相談者の主訴を把握しサービス選択のための情報提供 ・未認定者の申請手続きを援助、代行 アセスメント ・全社協方式のアセスメント方式を利用 ・客観性、具体性を重視したアセスメント プラン作成 ・自立支援、尊厳保持、関係機関との連携、身体状況を考慮して計画原案を立てる ・本人、家族と共同して作成し、説明と同意をいただく サービス担当者会議 ・利用者や家族の生活全体を共通理解 ・計画書内容の共有化 ・各事業所の役割分担の確認と理解 ※利用者の状況が変化しサービス内容変更の場合や 区分変更・更新時開催 実行 ・サービス事業所と連携を図り、報告を受けながら介護保険サービスを提供していく ・インフォーマルサービス（介護保険外等のサービス）についても積極的に組み込む 評価・モニタリング ・サービス提供状況、ケアプランの目標内容を確認しながらモニタリング、評価を行い、記録をする ・必要に応じてプランの変更、目標の再設定を行い、事業所や家族と情報共有する その他 ・法令遵守・介護保険法やその他法令の遵守・書類備や介護支援専門員の専門職としての動き ・介護保険改定に伴う研修や勉強会への参加 ・困難事例などの受入時の協力体制整備 ・利用者や家族からの苦情の対し適切な解決に努める ・職員間によるプランチェックの実施とプランニングの質向上 ・社会資源の発掘	・依頼の打診時は基本的には受託 ・要支援者については30件までを目安とする ・ケアプラン作成一連の流れについては、適正に実施されているかを、月一度の会議での確認を継続し、法令遵守
Ⅱ 接遇マナーの遵守 ・利用者、その家族、関連機関とのコミュニケーション	継続中 ・振り返りをしながら、継続実施

	ヨンの重要性の理解 ・他事業者、他職種とのコミュニケーションの重要性の理解 ・保険者・社協・包括支援センターとのコミュニケーションの重要性の理解 ・電話対応、訪問先での接遇マナー	
-5 地域貢献及び連携		
I	・インフォーマルサービスの団体等との交流、資源開発 ・地域の行事等に参加するなど、知名度を上げる活動 ・地域の診療所、病院との連携の強化 ・民生委員との交流・ボランティアとの交流	実施及び継続 ・特養本体の行事等において役割を持ち実施 ・地域貢献事業の一環として、城根地区において、3/20(祝)「彩の集い」を実施、中心的役割を担う 内容：地域の方、民生委員を対象に介護相談会、介護予防の講話や催しと軽食を提供。居宅ケアマネ・施設職員の協力の元、気軽に参加できる集いとした。
II	お祭り（納涼祭・敬老会・家族会・喫茶室等 ※居宅の利用者、その家族にも参加してもらえよう体制づくりを行う	継続中 ・居宅利用者の参加については要検討
III	介護教室 ※居宅の利用者、その家族にも参加してもらえよう体制づくりを行う	未実施
-6 職員関係		
i	教育 ・日本介護支援専門員協議会・茨城県介護支援専門員協議会、取手市介護支援専門員協議会等の会合、研修の参加及び、地域の研修、催し等にも参加し情報収集を行う ・地域包括支援センター主催の地域ケア会議への参加、事例発表 ・月に一回の居宅介護支援事業所会議の開催、必要に応じてケース検討会の開催 ・特養内の内部研修等への積極参加	達成及び継続 ・今後も継続的、積極的に参加
-7 職員待遇		・特養と同等とする
-8 在宅事業強化		
i	施設内連携、連動を意識し強化する	継続中
ii	ショート、デイにおけるサービス強化体制の支援や提案を行う	・定期的なミーティングを行い、連携強化を維持
iii	在宅会議の内容強化と、具体的実践	・特に混乱なく、移行した
iv	職員間の情報交換、課題共有、報連相の強化	
v	日常生活支援総合事業へのスムーズな移行	

1. 法人基本情報

(1)都道府県区分 08 茨城県	(2)市町村区分 217 取手市	(3)所轄庁区分 08217	(4)法人番号 8050005009149	(5)法人区分 01 一般法人	(6)活動状況 01 運営中
(7)法人の名称 社会福祉法人 百音の会					
(8)主たる事務所の住所 茨城県 取手市	小文間字谷耕地5720番1				
(9)主たる事務所の電話番号 0297-77-1317	(10)主たる事務所の F A X 番号 0297-70-6575	(11)従たる事務所の有無 2 無			
(12)従たる事務所の住所					
(13)法人のホームページ http://m.suisaikan.jp/ 平成16年2月9日	(14)法人のメールアドレス info_suisai@suisaikan.jp 平成16年2月13日				
(15)法人の設立認可年月日	(16)法人の設立登記年月日				

2. 当該会計年度の初日における評議員の状況

(1)評議員の定員	7~10	(2)評議員の現員	10	(3-6)評議員全員の報酬等の総額（円）	0
-----------	------	-----------	----	----------------------	---

(3-1)評議員の氏名	(3-3)評議員の任期	(3-4)評議員の所轄庁からの再就職状況	(3-5)他の社会福祉法人の評議員・役員・職員との兼務状況	(3-7)前会計年度における評議員会への出席回数
(3-2)評議員の職業				
黒野 巧己 税理士	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	1 有	0
小谷野 守男 教育委員	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	2 無	0
鈴木 朋子 障害者事業経営	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	2 無	0
小林 良子 看護師	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	2 無	0
村上 盛一 教育委員	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	2 無	0
飯塚 千秋 看護師	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	2 無	0
島田 三郎 青少年相談員	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	2 無	0
大道 祐見子 元職員	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	2 無	0
門馬 敦 医薬事業経営	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	2 無	0
岡北 友輔 元障害事業所管理者	H29.4.1 ~ H33.3.31	2 無	2 無	0

3. 当該会計年度の初日における理事の状況

(1)理事の定員	6~9	(2)理事の現員	9	(3-12)理事全員の報酬等の総額（円）	25,722,628	2 特例無
----------	-----	----------	---	----------------------	------------	-------

(3-1)理事の氏名	(3-2)理事の役職	(3-3)理事長への就任年月日	(3-4)理事の常勤・非常勤	(3-5)理事選任の評議員会議決年月日	(3-6)理事の職業	(3-7)理事の所轄庁からの再就職状況
	(3-8)理事の任期		(3-9)理事要件の区分別該当状況		(3-10)各理事と親族等特殊関係にある者の有無	(3-11)理事報酬等の支給形態
山崎 隆夫	1 理事長（会長等含む。） H28.2.14 ~ H30.2.13	平成25年9月24日	1 常勤	平成29年6月17日 福祉事業		2 無
小林 成一	3 その他理事 H27.10.5 ~ H29.10.4		1 社会福祉事業の経営に関する識見を有する者 2 非常勤	平成29年6月17日 弁護士	2 無	1 理事報酬及び職員給料ともに支給
大兼久 つかね	2 業務執行理事（常務理事等含む。） H28.2.14 ~ H30.2.13		1 社会福祉事業の経営に関する識見を有する者 3 施設の管理者	平成29年6月17日 福祉事業	1 有	2 理事報酬のみ支給
岡 賢市	2 業務執行理事（常務理事等含む。） H28.2.14 ~ H30.2.13		1 常勤 3 施設の管理者	平成29年6月17日 福祉事業	2 無	1 理事報酬及び職員給料ともに支給
大橋 幸雄	3 その他理事 H28.2.14 ~ H30.2.13		2 非常勤 2 事業区域における福祉に関する実情に通じている者	平成29年6月17日 土地改良区理事長	2 無	2 理事報酬のみ支給
篠原 通夫	3 その他理事 H27.10.5 ~ H29.10.4		2 非常勤 1 社会福祉事業の経営に関する識見を有する者	平成29年6月17日 会計士	2 無	2 理事報酬のみ支給
小嶋 吉浩	3 その他理事 H27.10.5 ~ H29.10.4		2 非常勤 2 事業区域における福祉に関する実情に通じている者	平成29年6月17日 経営者	2 無	2 理事報酬のみ支給
小林 大就	3 その他理事 H28.2.14 ~ H30.2.13		2 非常勤 4 その他	平成29年6月17日 行政書士	2 無	2 理事報酬のみ支給
桑田 慎	3 その他理事 H28.2.14 ~ H30.2.13		2 非常勤 4 その他	平成29年6月17日 経営者	1 有	2 理事報酬のみ支給

4. 当該会計年度の初日における監事の状況

(1)監事の定員	2	(2)監事の現員	2	(3-6)監事全員の報酬等の総額（円）	40,000
----------	---	----------	---	---------------------	--------

(3-1)監事の氏名	(3-2)①監事の職業	(3-2)②監事の所轄庁からの再就職状況	(3-3)監事選任の評議員会議決年月日
	(3-4)監事の任期	(3-5)監事要件の区分別該当状況	(3-7)前会計年度における理事会への出席回数
中山 健幹	税理士 H28.2.14 ~ H30.2.13	2 無	平成29年6月17日
櫻井 清之	経営者 H28.2.14 ~ H30.2.13	5 財務管理に識見を有する者（税理士） 2 無	2 平成29年6月17日
		6 財務管理に識見を有する者（その他）	4

5. 前会計年度・当会計年度における会計監査人の状況

(1-1)前会計年度の会計監査人の氏名（監査法人の場合は監査法人名）	(1-2)前会計年度の会計監査人の監査報酬額（円）	(1-3)前年度決算にかかる定時評議員会への出席の有無	(2-1)当会計年度の会計監査人の氏名（監査法人の場合は監査法人名）	(2-2)当会計年度の会計監査人の監査報酬額（円）
				0

6. 当該会計年度の初日における職員の状況

(1)法人本部職員の人数					
①常勤専従者の実数	1	②常勤兼務者の実数	3	③非常勤者の実数	0
		常勤換算数	1.0	常勤換算数	0.0
(2)施設・事業所職員の人数					
①常勤専従者の実数	38	②常勤兼務者の実数	10	③非常勤者の実数	46
		常勤換算数	9.4	常勤換算数	24.8

7. 前会計年度の評議員会の状況

(1)評議員会ごとの評議員会開催年月日	(2)評議員会ごとの評議員・理事・監事・会計監査人別の出席者数				(3)評議員会ごとの決議事項
	評議員	理事	監事	会計監査人	
(4)うち開催を省略した回数					
				0	

8. 前会計年度の理事会の状況

(1)理事会ごとの理事会開催年月日	(2)理事会ごとの理事・監事別の出席者数		(3)理事会ごとの決議事項
	理事	監事	
平成28年5月29日	8	1	・現況報告・平成27年度決算報告・定款一部訂正
平成28年11月27日	9	1	・現況報告・平成28年度補正予算・定款変更・地域貢献事業開始・ショートステイ床一部を特養床へ用途変更申請
平成29年3月19日	9	1	・現況報告・評議員選任解任委員承認・評議員選任解任委員会運営規則施行・評議員推薦・定款細則変更・育児介護休業法規程変更
平成29年3月31日	8	2	・評議員決定・経理規程及び細則変更・給与規程及びキャリアパス規程変更・役員報酬規程変更・平成29年度事業計画

(4)うち開催を省略した回数 0

9. 前会計年度の監事監査の状況

(1)監事監査を実施した監事の氏名	中山 健幹 櫻井 清之
(2)監査報告により求められた改善すべき事項	特になし
(3)監査報告により求められた改善すべき事項に対する対応	特になし

10. 前会計年度の会計監査の状況

(1)会計監査人による会計監査報告における意見の区分	
(2)会計監査人による監査報告書	

11. 前会計年度における事業等の概要 - (1)社会福祉事業の実施状況

①-1拠点区分コード分類	①-2拠点区分名称	①-3事業類型コード分類	①-4実施事業名称			②事業所の名称					
		③事業所の所在地			④事業所の土地の保有状況	⑤事業所の建物の保有状況	⑥事業所単位での事業開始年月日	⑦事業所単位での定員	⑧年間(4月～3月)利用者延べ総数(人/年)		
		⑨社会福祉施設等の建設等の状況(当該拠点区分における主たる事業(前年度の年間収益が最も多い事業)に計上)									
		ア 建設費	(ア) 建設年月日	(イ) 自己資金額(円)	(ウ) 補助金額(円)	(エ) 借入金額(円)	(オ) 建設費合計額(円)	ウ 延べ床面積			
		イ 大規模修繕	(ア) - 1 修繕年月日(1回目)	(ア) - 2 修繕年月日(2回目)	(ア) - 3 修繕年月日(3回目)	(ア) - 4 修繕年月日(4回目)	(ア) - 5修繕年月日(5回目)	(イ) 修繕費合計額(円)			
001	水彩館	01030202	特別養護老人ホーム(介護福祉サービス)			特別養護老人ホーム水彩館					
		茨城県	取手市	小文間字谷耕地 5 7 2 0 番 1			3 自己所有	3 自己所有	平成17年4月1日	84	27,373
		ア建設費	平成17年3月2日		100,745,000	400,100,000	731,600,000	1,232,445,000	3,932.900		
		イ大規模修繕									
001	水彩館	02120401	老人短期入所事業(短期入所生活介護)			ショートステイ水彩館					
		茨城県	取手市	小文間字谷耕地 5 7 2 0 番 1			3 自己所有	3 自己所有	平成17年4月1日	16	5,759
		ア建設費							0	618.290	
		イ大規模修繕									
001	水彩館	02120201	老人デイサービス事業(通所介護)			デイサービスセンター水彩館					
		茨城県	取手市	小文間字谷耕地 5 7 2 0 番 1			3 自己所有	3 自己所有	平成17年4月1日	25	5,044
		ア建設費							0	202.500	
		イ大規模修繕									
001	水彩館	06260301	(公益) 居宅介護支援事業			居宅介護支援事業所水彩館					
		茨城県	取手市	小文間字谷耕地 5 7 2 0 番 1			3 自己所有	3 自己所有	平成21年11月1日	0	1,034
		ア建設費							0	30.000	
		イ大規模修繕									

11. 前会計年度における事業等の概要 - (2)公益事業

①-1拠点区分コード分類	①-2拠点区分名称	①-3事業類型コード分類		①-4実施事業名称		②事業所の名称									
		③事業所の所在地				④事業所の土地の保有状況		⑤事業所の建物の保有状況		⑥事業所単位での事業開始年月日		⑦事業所単位での定員		⑧年間(4月～3月)利用者延べ総数(人/年)	
		⑨社会福祉施設等の建設等の状況(当該拠点区分における主たる事業(前年度の年間収益が最も多い事業)に計上)													
		ア 建設費		(ア) 建設年月日		(イ) 自己資金額(円)		(ウ) 補助金額(円)		(エ) 借入金額(円)		(オ) 建設費合計額(円)		ウ 延べ床面積	
		イ 大規模修繕		(ア) - 1 修繕年月日(1回目)		(ア) - 2 修繕年月日(2回目)		(ア) - 3 修繕年月日(3回目)		(ア) - 4 修繕年月日(4回目)		(ア) - 5 修繕年月日(5回目)		(イ) 修繕費合計額(円)	

11. 前会計年度における事業等の概要 - (3)収益事業

①-1拠点区分コード分類	①-2拠点区分名称	①-3事業類型コード分類	①-4実施事業名称		②事業所の名称					
		③事業所の所在地				④事業所の土地の保有状況	⑤事業所の建物の保有状況	⑥事業所単位での事業開始年月日	⑦事業所単位での定員	⑧年間(4月～3月)利用者延べ総数(人/年)
		⑨社会福祉施設等の建設等の状況(当該拠点区分における主たる事業(前年度の年間収益が最も多い事業)に計上)								
		ア 建設費	(ア) 建設年月日	(イ) 自己資金額(円)	(ウ) 補助金額(円)	(エ) 借入金額(円)	(オ) 建設費合計額(円)	ウ 延べ床面積		
		イ 大規模修繕	(ア) - 1 修繕年月日 (1回目)	(ア) - 2 修繕年月日 (2回目)	(ア) - 3 修繕年月日 (3回目)	(ア) - 4 修繕年月日 (4回目)	(ア) - 5 修繕年月日 (5回目)	(イ) 修繕費合計額(円)		

1 1. 前会計年度における事業等の概要 - (4)備考

特に無し

11-2. うち地域における公益的な取組（地域公益事業含む）（再掲）

①取組類型コード分類	②取組の名称	③取組の実施場所(区域)
	④取組内容	
社会福祉に関する調査研究等	彩の集い(いどうのつどい)	特別養護老人ホーム水影館近隣区域
	地域住民と介護に関する相談、健康体操やレク等の提供、地域高齢者事情の把握を行う	

1 2. 社会福祉充実残額及び社会福祉充実計画の策定の状況 (社会福祉充実残額算定シートを作成するまで編集することはできません)

(1) 社会福祉充実残額の総額(円)		0
(2) 社会福祉充実計画における計画額(計画期間中の総額)		
①社会福祉事業又は公益事業(社会福祉事業に類する小規模事業)(円)		0
②地域公益事業(円)		0
③公益事業(円)		0
④合計額(①+②+③)(円)		0
(3) 社会福祉充実残額の前年度の投資実績額		
①社会福祉事業又は公益事業(社会福祉事業に類する小規模事業)(円)		0
②地域公益事業(円)		0
③公益事業(円)		0
④合計額(①+②+③)(円)		0
(4) 社会福祉充実計画の実施期間		～

1 3. 透明性の確保に向けた取組状況

(1)積極的な情報公表への取組	
①任意事項の公表の有無	
②事業報告	1 有
③財産目録	1 有
④事業計画書	1 有
⑤第三者評価結果	3 該当なし
⑥苦情処理結果	1 有
⑦監事監査結果	1 有
⑧附属明細書	1 有
(2)前会計年度の報酬・補助金等の公費の状況	
①事業運営に係る公費(円)	0
②施設・設備に係る公費(円)	918,000
③国庫補助金等特別積立金取崩累計額(円)	13,620,915
(3)福祉サービスの第三者評価の受審施設・事業所について	
施設名	直近の受審年度

1 4. ガバナンスの強化・財務規律の確立に向けた取組状況

(1)会計監査人非設置法人における会計に関する専門家の活用状況	
①実施者の区分	04 税理士法人
②実施者の氏名(法人の場合は法人名)	リッチフィールド税理士法人
③業務内容	イ 財務会計に関する事務処理体制の向上に対する支援
④費用[年額](円)	2,073,600
(2)法人所轄庁からの報告徴収・検査への対応状況	
①所轄庁から求められた改善事項	定款7条1項の文庫訂正
②実施した改善内容	上記事項の訂正終了

1 5. その他

退職手当制度の加入状況等(複数回答可)	
①社会福祉施設職員等退職手当共済制度((独)福祉医療機構)に加入	2 無
②中小企業退職金共済制度((独)勤労者退職金共済機構)に加入	2 無
③特定退職金共済制度(商工会議所)に加入	2 無
④都道府県社会福祉協議会や都道府県民間社会福祉事業職員共済会等が行う民間の社会福祉事業・施設の職員を対象とした退職手当制度に加入	2 無
⑤その他の退職手当制度に加入(具体的に: ●●●)	無
⑥法人独自で退職手当制度を整備	1 有
⑦退職手当制度には加入せず、退職給付引当金の積立も行っていない	2 無